



# CSV REPORT 2021

CSVレポート2021



TOGETHER! FOR THE FUTURE

# 新型コロナウイルス感染症 への対応



CCBJHグループでは、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地域社会への継続的支援としてさまざまな取り組みを実施しました。コミュニティのみなさまへのサポート、新たな日常“withコロナ”に対応した製品の販売や社員がより柔軟に働けるような仕組みづくりなど、包括的な対策を行い、すべての人にハッピーでさわやかなひとときをお届けすべく、お取引先のみなさまのビジネスパートナーとして、ともに苦境を乗り越えるため、社員一丸となって安全・安心な製品の供給を継続し事業活動を行っています。

## 1 コミュニティのみなさまへのサポート

### ● 製品の寄贈

2020年4月から、延べ約365カ所の医療機関や行政・自治体などを通じて、新型コロナウイルス感染症拡大防止に取り組む医療関係者のみなさまへ約32,000ケースの製品を無償提供しています。また、延べ48カ所のフードバンクを通じて、子ども食堂や各種福祉施設へ約14,000ケースの製品をお届けしました。今後も、コロナ禍において支援を必要としている方々への製品寄贈を継続していきます。

寄贈数

4万6,000

ケース以上

2020年12月末時点

### ● 感染予防具の寄贈

2020年4月、医療従事者の防護服の不足を受け、コカ・コーラレッドスパークスラグビー部が観客用に準備していた「レインコート」3,000枚を大阪市へ寄贈しました。また、コカ・コーラシステムでは、プラスチック資源循環の側面から、リサイクルPET素材を応用した「簡易フェイスシールド」を約11,000枚製造し、公的団体を通じ医療機関などへ寄贈しています。



簡易フェイスシールド



## 2

### “withコロナ”時代に 対応した新しい営業の形



お客さまやお得意さまへのサポートサイト  
<https://www.ccbji.co.jp/business/together/>



2020年6月より、自動販売機の商品選択ボタンや取り出し口へ、厳しい基準を満たした抗ウイルス性・抗菌性および安全性を認証する「SIAAマーク」を取得したフィルムの貼り付けによる抗ウイルス・抗菌対策を開始しました。

CCBJIグループのFVジャパンでは、2020年7月より自社の自動販売機で「マスク販売」を開始し、非接触・非対面でマスクを購入できる環境の提供に努めています。さらに、CCBJIグループでは、一般社団法人全国清涼飲料連合会と協働し、東京都が推進している感染防止対策のひとつである「感染防止徹底宣言ステッカー」の啓発普及を目的に、東京都内の約7万台の自動販売機にステッカーを貼付する活動にも取り組んでいます。

これからも新しい営業の形を追求し、お客さまやお得意さまに向けた包括的な対策を実施していきます。



## 3

### “withコロナ”時代に対応した柔軟な働き方を目指して

CCBJHグループは、新型コロナウイルス感染症の影響もたらす社会の変化、“withコロナ”に対応した働き方を推進しています。変化と向かい合いながら、リスク対策と業務を両立し、社員の安全と持続的成長を実現するためのさまざまな施策を実施しています。

#### ● リスク対策と業務の両立

全社員へのスマートフォン配布などITツールを積極的に導入し、“withコロナ”に対応した働き方へスムーズに移行した結果、「第38回IT賞」のIT奨励賞(「新しい生活様式」への対応領域)を受賞しました。また、テレワークやコアタイムの存在しないスーパーフレックス、自転車通勤制度の拡充、サテライトオフィスの拡大やオンライン入社式の実施などにも取り組みました。2021年には、就業時間内に新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を受ける社員を対象に特別有給休暇制度を導入しました。

#### “withコロナ”への主な取り組み

- テレワークの推進
- サテライトオフィスの拡大
- 自転車通勤の推進
- 全社員へのスマートフォン配布などITツールの拡充
- 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種への特別有給休暇

#### ● 社員向けメッセージの定期発信

社内イントラネットやコミュニケーションツール“Yammer”を活用し、社員に向けた新型コロナウイルス感染症関連の案内やQ&Aページの開設、“withコロナ”に対応した働き方に関するマネジメントからのメッセージなど、コロナ禍においても社員同士の存在を身近に感じられるように、それぞれの業務や想いのバトンをつなぐ「メッセージリレー」を行っています。地域や部門を超えた仲間のリアクションがお互いの励みになっています。

**メッセージリレー**

2020年7月20日  
「どんなときもお客さまに寄り添う活動を。  
Together!」

働き方改革については、Section 3「人権尊重と社員の働きがい」でも紹介しています。 **P41** ▶

REBORN **Coca-Cola** BOTTTLERS JAPAN INC. HIROSHIMA PLANT

# 広島工場 災害からの復興



2018年7月に西日本豪雨災害で甚大な被害を受けたCCBJ本郷工場(広島県三原市)は、2020年6月、同市内に移転し「新・広島工場」として生まれ変わりました。同年10月には工場見学施設も完成。広島工場が社員のみならず、地域のみなさまにとっても復興のシンボルとなるよう工場を通してこれまで以上に地域の復興と発展に寄与し、安全・安心で価値ある製品をお届けします。

## Hiroshima Plant History

2018年7月



本郷工場は西日本豪雨災害により2.5mもの高さの浸水に見舞われ、製造ラインと自動倉庫に甚大な被害を受けて稼働を停止しました。

2019年6月



迅速な復旧作業の後、本郷工場から4kmほどの地点に移転を決定。建設予定地で安全祈願祭を行い、本格的な建設に着手しました。

2020年6月



被災した本郷工場と比較して約1.5倍の生産能力を備え、中国・四国エリアにおける製品供給の中核を担う工場として生まれ変わりました。

2020年10月



竣工式では、広島県湯崎知事、三原市岡田市長をはじめとした関係者のみなさまへ当社代表取締役社長カリン・ドラガンから感謝の想いを伝えました。

新・広島工場は「世界中から人の集まる 先進的かつ魅力的な工場を目指す」をコンセプトに、単に工場を復旧させるのではなく、地球環境や品質、労働環境、社員育成や地域の貢献に至るまで、世界に誇れる工場としての復興を目指しました。

## 1 | 高品質の製品を生産する 工程管理

安定した品質基準を維持するために、自動検査機による品質管理検査を実施しています。最新設備によるプロセス管理が、高い基準に沿って確実に実施されていることを、自動検査機で確認することで、効率的に高品質な製品を生産することが可能になりました。



## 2 | 世界基準の 労働安全環境

国内の基準よりもさらに厳しいコカ・コーラ独自の世界共通マネジメントシステム「KORE (Coca-Cola Operating Requirements)」によるオペレーション管理を行っています。また、安全リスクに基づいた設備設計と作業環境を構築し、安全な職場環境づくりに取り組んでいます。



## 3 | 最新の IoT技術を導入

遠隔で設備の状態を監視するシステムを導入し、生産設備やユーティリティ設備の安定稼働に活用しています。原材料や資材の搬入から供給、ロット管理に至る工程を自動化し、帳票作成過程をデジタル化するなど徹底した省人・省エネルギー化を実現しました。



## 4 | エネルギーの無駄排除と 新技術による革新

これまで表計算ソフトで行っていた水やエネルギー使用量の算出・管理を自動化することにより、算出に費やしていた時間を削減しました。新技術を取り入れることで、省エネルギー化を実現するとともにタイムリーなデータの活用で改善活動の活性化も推進しています。



## 5 | 地域とのコミュニケーション拠点としての新たな役割

工場内には世界中の人々との交流拠点となる工場見学エリアを構えています。世界トップクラスの製造工程を「体感」する工場見学を目指し、さまざまなサプライズを用意しています。このような取り組みを通じて、広島の新たなシンボルとして地域活性化に向けて貢献します。



広島工場については、Section 2プラットフォーム「地域社会」への取り組みでも紹介しています。P26 ▶

WORLD WITHOUT WASTE

「廃棄物ゼロ社会」を目指して

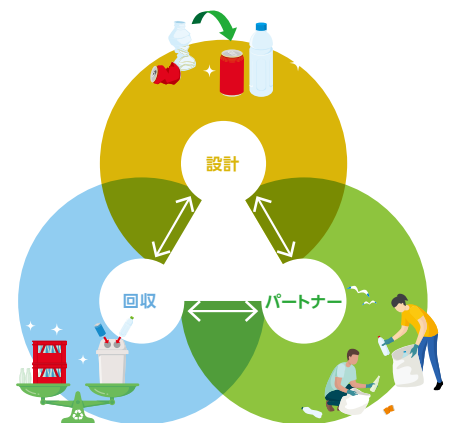


ザ コカ・コーラ カンパニーが、2018年に掲げたグローバルビジョン「World Without Waste (廃棄物ゼロ社会)」の実現を目指し、同年1月、日本のコカ・コーラシステムは「設計」「回収」「パートナー」の3本の柱から成る「容器の2030年ビジョン」を設定しました。2019年7月には、従来の目標達成の前倒しを含め、グローバル目標よりもさらに高い水準を目指す日本のコカ・コーラシステム独自の目標へ更新し、具体的な取り組みを進めています。

● 「容器の2030年ビジョン」3つの柱

日本のコカ・コーラシステムは、「ボトルtoボトル」の推進などを通じ、2030年までにすべてのPETボトルを100%サステナブル素材に切り替えることなどを骨子とした「容器の2030年ビジョン」の実現に取り組んでいます。

設計	「ボトルtoボトル」を推進し、2022年までにリサイクルPET樹脂の使用率50%以上、2030年にはその比率を90%にまでに高め、新たな化石燃料を使用しないPET容器の完全導入を目指します。
回収	2030年までに、日本国内で販売した自社製品と同等量のPETボトルを回収することを目指します。
パートナー	政府や自治体、飲料業界、地域社会との協働を通して、より着実な容器回収・リサイクルスキームの構築と、その維持に取り組めます。



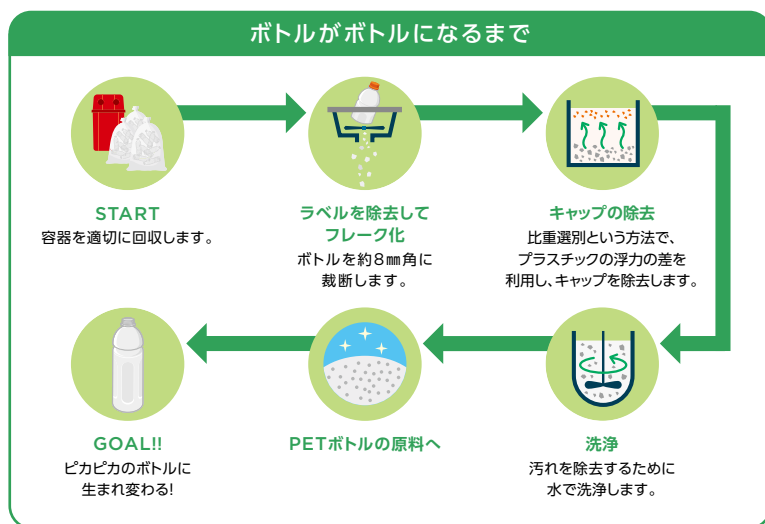
設計



## 「ボトルtoボトル」の推進

日本のコカ・コーラシステムが、「容器の2030年ビジョン」に基づいて推進している「ボトルtoボトル」\*は、目標に向けて着実に進捗しています。2020年、「い・ろ・は・す 天然水 100% リサイクルペットボトル」「い・ろ・は・す 天然水 ラベルレス」に100%リサイクルPETボトルを採用した結果、循環型社会への貢献が評価され、第21回グリーン購入大賞 プラスチック資源循環特別部門 大賞を受賞しました。また、2021年2月より、リサイクル可能な製品パッケージに共通の「リサイクルしてね」ロゴを順次導入するなど、プラスチック循環型社会の実現に向けた啓発活動にも取り組んでいます。2021年5月には、旗艦製品である「コカ・コーラ」、「ジョージア ジャパン クラフトマン」にも100%リサイクルPETボトルを採用しました。

\*使用済みPETボトルを回収し、新たにPETボトルとして再生する取り組み



※一般的なペットボトルから100%リサイクルPET素材に切り替えた場合。

設計

## 容器の軽量化による PET樹脂使用量の削減

1996年、日本のコカ・コーラシステムの水製品用小型PETボトル(500ml)の重さは32gでした。2009年に発売された「い・ろ・は・す 天然水」では当時国内最軽量\*となる約12gまで軽量化を実現。今後も飲料容器としての性能を保ちながら、PET樹脂使用量の削減を目指していきます。



\*2009年3月時点。  
国内製造品500mlPETボトル対象。  
日本コカ・コーラ調べ



回収

パートナー

## セブン&アイ・ホールディングスとの完全循環型リサイクルの実現

2019年6月から販売している株式会社セブン&アイ・ホールディングスと日本コカ・コーラによる共同企画商品「一(はじめ)緑茶」シリーズは、セブン&アイグループの店頭で回収された使用済みPETボトルをリサイクルしたPET樹脂のみを100%使用した「完全循環型PETボトル」を採用しています。完全循環型ペットボトルへの切り替えにより、CO<sub>2</sub>排出量を削減することを実現しました。

100% 再生PET樹脂使用ボトル  
Recycled plastic bottle



「World Without Waste」については、Section 2 プラットフォーム「資源」への取り組みでも紹介しています。

P29 ▶